



## 問 水道事業の現状と今後について

### 答 広域連携を視野に方向づけたい

**問** 年間総配水量は。

**上下水道課長** 町には2系統の水源があり、利根川表流水と埼玉県水は約半々を使用、直近5年平均は年間144万 $m^3$ 。

**問** ロスしている水、日量130 $m^3$ は妥当か。

**上下水道課長** 表流水の浄水過程では水質の濁り・臭気・土砂の流入など、配水過程では漏水や修繕工事等に伴う水抜きなどがある。

**問** 給水原価と供給単価は。

**上下水道課長** 直近5年平均は給水原価290円/供給単価215円。売上に対し経費が35%上回っている。

**問** 思川開発事業に係る負担金は。

**上下水道課長** 事業負担金は事業主体ごとに区分され、既に約

9,000万円を支出している。

**問** 水は暫定水利権(毎秒0.04 $m^3$ )で足りている、安定水利権(毎秒0.1 $m^3$ )分は必要か。

**上下水道課長** 計画水量(日量)11,500 $m^3$ とした場合、安定水利権分は必要。

**問** 今後の方向性は。

**町長** 埼玉県との広域連携を視野に、上下水道事業審議会でも検討いただき、水道事業運営を方向づけたい。

思川開発事業に係る事業負担金	
1	南摩ダム建設事業
	事業主体 水資源機構
	当初の総事業費 1,850億円
2	南摩ダム水源地域整備事業
	事業主体 栃木県と鹿沼市
	町負担分 約1億9,000万円
3	思川開発施設基金事業
	事業主体 利根川・荒川水源地域対策基金
	町負担分 約3,700万円
	支出分(H12年度～H27年度) 約2,740万円



思川事業の位置

## 問 運転免許自主返納者支援事業について

### 答 公共交通の体系整備を図り、他事例も検討

**問** 高齢者人口や高齢者免許人口は。

**生活安全課長** いずれも今日の高齢化社会を反映し大幅に増加している。

**問** 高齢運転者による交通事故は。

**生活安全課長** 県内発生件数は減少しているが、構成比は増加している。

**問** 運転免許自主返納者支援事業は。

**生活安全課長** 県は実施していない。県内10市町村で交通機関を利用できるよう返納者支援を実施、五霞町では実施していない。

**問** 高齢者が事故を起こす前に、環境を自治体が提供する必要はないか。

**町長** 警察での免許更新時の検査強化や、国・自動車メーカーでの車両本体メカニズムの開発も願う。公共交通体系の整備を図るとともに町もほかの事例等よく検討していきたい。

※他に、個人住民税の特別徴収税額通知書へのマイナンバー記載について問いました。